

網膜断層検査（OCTとは）

眼底三次元画像解析装置というもので、網膜の断層画像と視神経繊維層の断層画像を撮影する検査です。



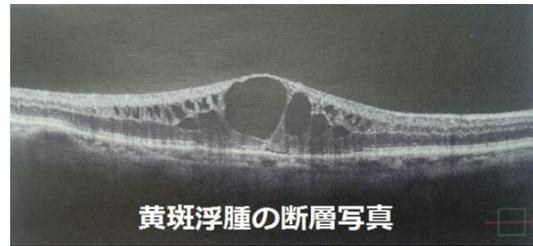
目のCTを撮るような感じです。網膜のむくみや出血の範囲、神経量などを測定できます。

従来の眼底検査では、わかりにくかった病気も早期にわかるようになり、治療もできるようになりました。その治療効果なども、このOCTで判断がつきます。

網膜で一番大切な黄斑部の病気の診断に有用です。

網膜断層写真から次のような病気の診断ができます。

- ・加齢黄斑変性症
- ・黄斑浮腫（糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症に伴うもの）
- ・黄斑円孔
- ・黄斑牽引症候群
- ・黄斑部網膜前膜

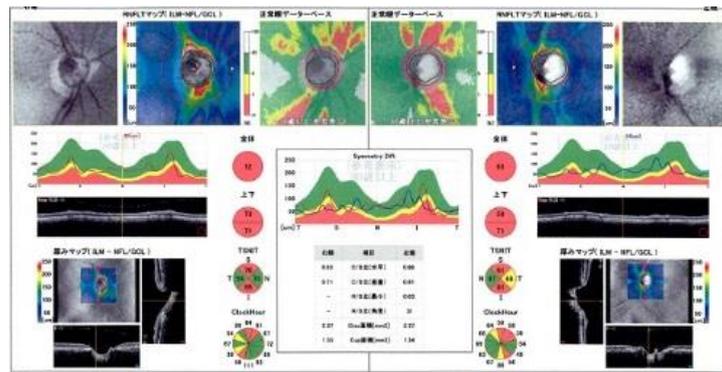


視神経繊維層の断層画像からは緑内障の診断ができます。

眼の奥の視神経繊維層の厚みや視神経乳頭（眼から頭につながる場所）の凹み具合を測定することができ、年齢などを考慮した解析をすることで、緑内障の早期発見、経過観察に役立ちます。

視神経障害が始まっても、従来の視野検査ではすぐに異常を検出できないので、その場合緑内障の診断が付きません。しかし、OCTでは直接神経が減ってきている程度がわかるので、緑内障を極早期発見することができます。

また、視野検査とともに定期的に検査することで、病気の経過がよりわかります。



視神経繊維層の解析画像